共にしあわせ産みだす党　日本共産党

市議団ニュース

第1890号　2018年9月30日

日本共産党　根室市議団
根室市宝林町4-203　℡23-6023

根室市議会は9月21日に臨時会を開会し、補正予算などを可決しました。

今年の根室市議会は8月31日に閉会しました。今回は市長改選のため、例年より遅く10月初旬に開会議会を開催の予定です。

なお、この1か月の閉会中に議会がおこなわれる「臨時議会」を開催することは、根室市議会が「ほぼ通年議会」の形式となってから、おそらく初めてのことではないかと思います。 臨時会の最後に、この9月に任期満了となる長谷川俊輔市長が退任のあいさつを述べました。

今回の市議団ニュースは、補正予算の内容について、一部をご紹介します。

「主体的・対話的で深い学び」の推進事業

文科省の制度で「学力定着に課題を抱える学校・地域」に対して行われる事業です。

今回は、北斗小学校がそのモデル校として選定をうけました。

今後、道教育委員会の指導主幹による訪問指導や、教職員が先進地への視察を行い、これから設置する「根室市学力向上推進協議会」で検証し、市内の各学校に成果を還元・波及させていこう、というイメージのようです。

ところでこの「主体的・対話的で深い学びの実現」（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善）というものですが、

国の資料を見ると、「その視点にたった授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること」とあります。一見なんか良さげなことが書かれていると思います。

全国学力・学習状況調査では、根室の児童生徒は、特に応用力を問う分野の問題が、全国的平均を下回っているそうです。

これは教科書の知識を覚えただけでは中々解けないような、大人から見ても「難しいな」と思える問題です。

確かにこの分野の点数を上げようとするなら、それに特化したトレーニングが必要なのかもしれません。

２０２０年度から始まる新しい学習指導要領で、この「主体的・対話的で深い学び」が重視されているそうです。

いずれにしても、ただ点数で推し量って「他の地域と比べて根室が低い、ダメだ！」ということではなく、新しいことを知ること覚えること、物事を多角的に深く考えていくこと、自ら学ぶこと…そういった学びが子どもたちにとって自発的に「楽しい」「うれしい」と思えるような授業により発展していくきっかけになっていくと良いと思います。

そのためには、いまの教職員の多忙化の本質的な解消やＩＣＴ化の推進など学校教育の環境整備の面でしっかりとした取り組みが必要です。

市立図書館のブロック塀の整備工事

今年６月18日の大阪北部地震では、小学校のブロック塀が倒壊し児童が犠牲となる事故が発生しました。

根室市でも公共施設の調査を行い、唯一古いブロック塀を使用している市立図書館で、塀の改修工事が予算化されました。

傾斜地のため駐車場など敷地への浸水を防ぐため基礎から上のブロック２-３段を残して、その上にアルミフェンスを設置する予定とのことです。

なお学校施設以外の通学路については、民間の物件で古いブロック塀がある箇所があり、そのうち教職員などが目視点検して「危険」と判断される建物の近くを通らないように学校側では指導しているそうです。

鈴木一彦議員は質疑で、子どもたちの通学路の安全確保の観点から、１回限りの点検ではなく経過をみるための継続的な取り組みが必要ではないか、と求めました。

市教委は今後、通学路の安全会議を設置して検討していくこととしており、その会議の中で経過をどのような形で把握していくか検討したいという趣旨を答えています。

ふるさと応援寄付金 今年は約30億円を見込む

今回の補正予算では、ふるさと応援寄付金に関して寄付金額を24億円追加し、今後活用していくための各種基金に計上しています。また歳出では返礼品など諸経費として約13億8000万円が追加されました。

市は今年度（来年3月末）までの見込みを20万件、総額30億円と見積もっています。

（2017年度は24万2022件、約39億73百万円）

花咲線のＰＲのためのへのクラウドファンディング型ふるさと応援寄付金制度の影響によって、前年同期で比較すると約1.3倍にのぼっているそうです。